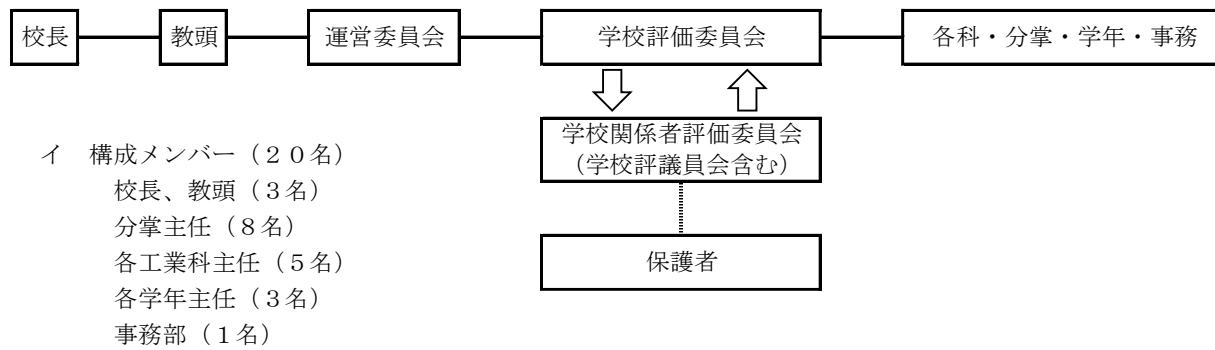


学校評価

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

ア 4月当初に本年度の重点目標を決定する。

イ 本年度の重点目標をもとに、4月中旬までに各分掌・各学科・各学年会の重点目標および具体的方策を決定する。

ウ 9月に課題別評価シートの内容で中間評価を行い、修正点を明確にする。

エ 2月に課題別評価シートの内容で年度末評価を行い、次年度の課題および目標を決定する。

オ 定期的に学校評価委員会を開催し、重点目標の達成状況や改善点の確認をする。また、適宜学校関係者評価委員会より意見を聴取して、外部評価の内容・方法等を検討する。

カ 学期に1回もしくは適宜、学校関係者評価委員会を開催し、学校評価の取組状況に対して説明をする。また、校内見学や授業参観等により積極的に意見を求める。

キ 学校評価の取組結果は、PTA総会、PTA会報、ホームページ等で公開する。

(3) 学校評価

ア 自己評価結果等

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>自ら考え行動できる社会人に必要な資質・能力を高める指導を多面的に展開する。 教科ごとに基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる指導を強化する。 あらゆる機会を捉えて、コミュニケーション能力の向上ならびに創造力を高める方策を考え実践する。 あらゆる教育活動において、それぞれの生徒が活躍できる場を数多く設定し、高校生活の充実と生徒が成長できる機会を増やす。 組織間の縦と横の連携を強化し、教職員が一丸となって教育活動を展開する。 教職員間の協力体制の在り方を点検し協働して業務に当たるなど、教職員の在校時間の適正化を図るとともに多忙化を改善し、教育活動を充実させる。</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>P T A活動 (総務部)</p>	<p>①P T A活動を充実させる。 ②保護者および生徒から信頼される学校を目指す。</p>	<p>①感染状況を注視しながら、P T A活動の充実化を図る。 ②P T A役員会・委員会において、意見交換しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>①第1回家庭教育講座では、これまでの観光をメインとした企画を見直し、保護者対象の企業・現場見学会を開催した。事後のアンケートでは、地元企業の活躍を知ることができたほか、子どもと進路について話し合うきっかけになったなど、高い評価を得ることができた。また、P T A主催の授業参観や冬の特別清掃を新たな企画として実施した。生徒や教員が活動する姿を見ることで、学校教育への関心を高めるとともに、子どもたちの成長を感じてもらえる機会とすることができた。その他にもP T A食品バザーをはじめ、救急安全講話や保健講話への積極的な参加があり、目標であったP T A活動の充実化を図ることができた。 ②P T A役員会・委員会では、意見交換しやすい雰囲気づくりに努め、得られた意見をもとに改善を図ることができた。</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①基礎学力の向上ができるために、授業を計画する。 ②社会や時代の変化に対応できるように人材を育てる。 ③自ら考え自ら学ぶ精神を身に付けさせる。</p>	<p>①生徒が理解しやすい授業を実践する。 ②I C Tなどの活用により学習効果の上がる授業を心掛ける。 ③将来を明確にすることで、自ら学ぶ意欲を高める。</p>	<p>①年5回の定期考査、欠席者対象の再試験や成績不振者対象の追考査・追認考査、及びそれに対する個別の補習授業などを実施することで基礎学力の向上に繋がった。長期休暇には課題に取り組みさせることで家庭学習習慣の定着に繋がった。 ②あいちラーニング推進事業が、各教科・学科において現在の授業内容を見直す機会になった。また、I C Tを活用した授業の実践への取り組みが授業改善に繋がった。次年度も継続していきたい。 ③授業内の活動で、グループワークや意見を発表する場を設けることで生徒の自ら学ぶ意欲を高めることができた。一方では、授業に十分集中できず、学習に真摯な姿勢で取り組むことが難しい生徒もいる。チーム学校として、学校全体で学習支援する必要性を感じている。</p>
<p>読書指導 (図書係)</p>	<p>①読書への関心を高めることができるために、機会を増やす取り組みを実施する。 ②脱ネット依存を目指すなど、生徒の実態に即した読書活動を推進する。</p>	<p>①教職員全体で良書を選定することや、友人同士で本を勧め合う機会を設けるなど、読書への関心を高める取り組みを実施する。また、朝読を通し、読書の機会を確保する。 ②図書館だよりを適時に発行し、より活発な図書室運営を目指す。また、図書委員を活用し、読書活動を推進しつつ、各科の授業に役立つ図書室整備を目指す。また、図書館利用の向上と、読書への習慣から、脱ネット依存への取り組みを、保健部と連携しながら行う。</p>	<p>①蔵書を整理していく作業は完了していない。新年度も蔵書の整理を続ける。 図書委員会を活用して図書館だよりを発行することができた。今後も続ける。 ②保健部と協力しながら、脱ネット依存を啓発する掲示物を掲出することができた。しかし、脱ネット依存に至っていない生徒も多いと思われる。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>①互いの生命と人権を尊重する心ができるための育成をする。 ②「生き延びる力」を身に付けるための育成をする。 ③コミュニケーション能力をもつことができるための育成をする。</p>	<p>①自己肯定感を高めるために自他ともに尊重し、思いやりのある行動を常に心がけさせる。 ②基本的な生活習慣の確立をはかり、学校生活を中心とした高校生活を意識させる。また、交通法規の遵守や交通マナー、校則への規範意識を意識させる。また普段より危険から身を守るための知識などを学習させる。 ③生徒自身による各種手続の実践を通して、入室時などでのコミュニケーションを通して、礼節を重んじる心の育成を行う。</p>	<p>①自己肯定感を高める活動として、自身の考えたことを実行し、反省、改善を繰り返していくことが必要であり、本年度より発足された校則検討委員会において生徒、保護者の意見を取り入れ多くの意見が学校に反映されることができた。 ②教員間での情報共有がより良くなるために同僚性を高める必要がある。同僚性を高めることで、コミュニケーションの向上や、予防的な活動ができるようになることを考える。 ③日頃から考えて行動するように伝えることで多くの生徒がTPOに合わせた行動ができるようになった。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
いじめ防止 対策の推進 (生徒指導部)	①未然防止に係る取組を充実する。 ②早期発見への対策をする。 ③いじめに対する共通認識及び情報共有を充実する。	①様々な学校行事を通じ、高校生活の充実と生徒のコミュニケーション能力の育成をはかる。 ②個人面談、保護者会、授業の取組等、教職員の事前、事後の情報共有の場を積極的に設ける。また、保護者、生徒に向けた学校からの伝達や学校の相談体制(スクールカウンセラー等)を積極的に伝え、早期発見につなげる。 ③心のアンケートの実施、いじめ不登校対策委員会はもとより、早期発見、未然防止を目的とした情報共有と適切な対応の検討を、各種会議(分掌会、学科、学年主任者会、学年会等)で活用する。	①教員間での同僚性をより高めることで予防的活動ができると考えられるが、担任の先生で抱えてしまうことがあり、対応が遅れてしまうことがあった。コミュニケーションの充実を図っていきたい。 ②問題行動が発生後は、クラス担任、教科担任と情報共有を徹底して行うことで、小さな問題にも教職員間で協力し、連携して対応することができた。内容をまとめ情報共有する流れを作り、対応をすることができた。 ③心のアンケートの集計結果や情報共有により、いじめの認知を積極的に行い、対応することができた。今後は教員間での情報共有がよりスムーズにできるように考えていきたい。
生徒会活動 (生徒会部)	①コロナ禍以降の学校行事の在り方と地域連携の模索。 ②一般の生徒が学校生活をより楽しむための雰囲気づくりをする。	①社会の状況を見極めながら、生徒の安全と教育効果を考えた立案を目指す。また、文化祭の一般公開に向けた検討と立案や、学校内外のボランティア活動の充実を図る。 ②生徒主体の活動を通じて生徒会活動の「見える化」を目指す。それには、意見箱、昼の放送、SNSなどを活用した総合的な「発信力」の強化や、定例行事の運営だけではない生徒主体の活動の充実を図る。	①学校行事は以前の形に戻りつつあるが、逆に現在の様々な価値観に照らし合わせると改善の必要がある部分も浮き彫りになってきた。次年度に向けて実施内容や公開方法等、見直すべき部分を絞り込んで対応していきたい。 ②生徒会ラジオ、公式Instagramともにやや内容がマンネリ化しつつあり、生徒自身もそれを感じて改善に向けたアイデアを出しつつある。次年度が動き出すまでの余裕のある時期に、準備に取り組ませたい。
進路指導 (進路指導部)	①多様化する生徒の希望進路を見据えたキャリア教育の推進と実践。 ②生涯の職業を想定した進路意識を育成し、希望進路実現ができるための必要な基礎学力や資質の向上を図る。	①校外で実施される見学会や説明会等への積極的な参加や、進学者補習や小論文対策等も計画的に実施し、多様化する進学希望への指導をより一層充実させる。 ②学年に応じた進路講話や進路ガイダンスなどを通して、自ら情報収集させ、進路選択への知見を広め職業観や勤労観の育成を図る。	①企業や上級学校、卒業生を招いての進路イベントを各学年に応じて実施した。今年度は特に、これまで以上に学科の特性に応じた内容編成をした。学校斡旋就職希望者だけでなく、公務員希望者や進学希望者に対する説明会、面談も引き続き実施し、個に応じたキャリア教育をおこなった。加えて、今年度よりTeamsでの求人情報や進路情報の提供を開始し、自宅で保護者とも共有できるようにした。現在は一部でしかないが、今後は幅広い方面の情報提供をしていきたい。 ②各種の進路ガイダンスに加えて、3年生に対する面接指導、2・3年生の進学希望者に対する平日の補習や夏季休業中の学習会、志望理由書作成講座、小論文対策講座などを実施し、各個人の意識を高めさせるとともに、学力および資質向上に向けてサポートした。今後の課題としては、労力対効果を再検討して行事精選し、教員側が十分な準備をした上で各作業にあたるよう工夫していく必要がある。
保健指導 (保健部)	①救急体制の整備。 ②性についての指導の充実。 ③校内環境整備、美化の強化。 ④保健・美化委員会の積極的な活動の推進	①健康面で配慮や定期観察が必要な生徒情報の周知徹底をする。また、生徒及び職員の救急法講習の充実を図る。 ②性に関する保健講話や生徒保健委員会による啓発活動を実施する。 ③清掃重点区域の設定、清掃区域の見直しと清掃道具やゴミ箱の整備をする。 ④美化委員によるゴミの分別収集、清掃点検及び保健委員によるほけんだより作成、文化祭発表等を実施する。	①現職研修では心肺蘇生・AED講習を今年度もハートセンターの杉浦様を講師に招き実施することができた。生徒向けのAED講習会も同様に開催し多くの生徒が「普通救命講習修了証」を取得し救命技能を高めることができた。教科保健での実習も今年度は講師を依頼し実施予定である。同時に教員向けで「普通救命講習修了証」を取得できる予定である。 ②今年度より、性について学びを深めるように保健だよりや保健講話を実施し、また、保健だよりをマチコミメールで配信し、セクソロジーへの理解を深めることができた。 ③④清掃時の美化委員や生徒会役員によるごみの分別回収は、きちんと行うことができている。保健委員による活動も保健だより、文化祭発表など活動的に実施できた。トイレ・階段清掃に課題が残った。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教育相談 (教育相談係)	①組織的な生徒支援。 ②特別支援教育の推進。	①ケース会議や教育相談、特別支援教育委員会を活用する。また、SCやSSW、外部専門機関と連携した生徒支援を行う。なお、職員の要望や実態に合った現職研修を実施する。 ②「個別の教育支援計画」や「学校生活における配慮申請書」を活用する。なお、職員の要望や実態に合った現職研修を実施する。	①②教育相談委員会兼特別支援教育委員会を学期に1回開催したり、ケース会議や配慮内容の検討を行ったりしたことで、情報の共有が確実にでき、組織的な生徒支援に繋がった。 ①自殺予防教育についての研修を行い、問題の見立てやSOSの受け止め方、組織的な対応について学んだ。今後、より多くの職員が参加できるよう研修の在り方を工夫していく。 ①②1月末現在で、17名の生徒や保護者がSCを利用し、面談後はSCと職員とで連絡会を実施している。外部機関と連携したり助言をもらったりして対応した事例もあった。 ②数名の生徒の「個別の支援・指導計画」を作成予定。今後、活用の在り方を検討していく。
工務 (工務部)	①工業の各分野に関する専門的な教育の充実と社会で通用することができる人材を育てる。 ②地域社会に必要とされる学校作りの推進と広報活動を図る。	①生徒が積極的、主体的に資格取得に取り組む姿勢を育てる。また、あいちSTEM能力育成事業やクラフトマンⅢ・各種競技会など、学校外への取り組みに生徒の活動する場面を探し、その活動成果を共有する場面を設ける。 ②地域や中学校との交流を積極的に進める。また、学校案内やチラシの作成をし、その案内や配布、動画の配信を通して情報を発信する。	①近年、上位資格や複数の資格を取得する者が増えている。今後もこれが継続するよう、サポートしていきたい。 ②学校説明会を中心に生徒や卒業生を活用し広報活動を行い効果的であった。また、学校紹介動画に、「産官学連携事業」のコンテンツを3つ追加し、その他の既存のものを2つリニューアルした。
情報ネットワーク部	①GIGAスクールに向けた、生徒や先生方が使えるように情報環境を整備する。 ②本校教育活動の状況をホームページなどを使って広く発信する。	①生徒や先生方が情報機器を使用し、授業などで活用できるようバックアップをする。また、ICT支援員の方などによる講習に参加していただく。 ②日ごろの活動をホームページなどで公開することで、保護者や地域の方々や企業等に本校の様子を広く知ってもらおう。	①ICT機器を多くの先生が使用するようになった。また、MicrosoftTeamsなどクラウドを使用した生徒への課題配信や課題収集をする先生が増えた。 ②ホームページは、随時、新しい情報を発信している。ただ、更新がしばらく出来ていない情報もいくらか存在している。
ロボット工学科	①進路実現に必要な能力を身に付けることができる育成をする。 ②報告書をしっかりと書くことができるための取り組みを行う。 ③安全教育が身につくための指導を徹底する。 ④機材・工具の管理	①横断的・総合的な学習を通して、自己の資質・能力の可能性を発見させ、探究的に学ぶ態度を養うとともにマネジメント能力・コミュニケーション能力を向上させる。 ②職業人として恥じない報告書作成ができるよう努めさせる。 ③産業用ロボット制御やレーザー加工などにおける事故の危険予測ができる能力を身に付けさせる。 ④使用する機材・工具を破損・紛失をさせないよう努めさせる。	①多くの生徒が教育活動を通して、コミュニケーション能力を向上させた。中学校への出前授業や、特別支援学校との共同学習などの対外活動をする課題研究では、人前で堂々と話しコミュニケーションをとる姿があった。協働する姿勢は次年度以降も身に付けさせたい能力である。 ②報告書は継続的に指導ができ、多くの生徒が1年間通して報告書を丁寧にまとめることができた。一部の生徒の提出を忘れることがあり、指導を続けている。 ③④機材管理の整理を行い、実習室がより使いやすくなった。パソコンの更新など適宜行い、配置などの整備を継続して行う必要がある。次年度から進める実習のテーマ内容について話し合うことができた。これから準備と実施に向けて進めていく。
機械科	①社会に必要なとされるための人材育成。 ②コミュニケーション能力が身につくための育成、及び、基本的な生活習慣を確立できるための学習を図る。	①自主性をもたせ、自らがチャレンジをする精神を促し、失敗を経験と捉えられるような考えを養わせる。また、工業における基礎的な知識、技術・技能・態度を実習等を通じて身につけさせる。 ②決められたルールを正しく守る態度や、習慣を身に付けさせ、社会性をもたせる。また、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を実践し、安全意識を高めさせる。	①クラフトマンⅢや工場見学・フォークリフト特別教育講習などの行事を実施することができ、生徒の進路決定の一つの材料になったと感じる。また、各クラスからの情報を吸い上げ、科全体で生徒の指導をすることができた。生徒一人一人に目を配り、今後は機械科の生徒像を各教員・生徒に伝えていきたい。 ②実習を重ねるごとに、危機管理意識は高まってきた。また、当初は生徒の準備不足で忘れ物が多かったが、指導を繰り返し行うことで減少した。生徒自身もそうだが、教員自身の安全意識も向上し実習の内容の改善を行うことができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
電気科	①基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる知識が身につけることができる指導をする。 ②自ら学び、広い視野をもって生徒が学習できる場を設定し、生徒が成長できる機会を増やす。	①生徒の学習におい基礎基本の定着と自ら学ぶ意欲を高めるため、わかりやすい授業の実践と工夫に取り組む。また、ICT活用の機会を増やし、工業への興味関心につながる指導を強化する。また、組織間の連携を強化し、共通した基準のもと観点別評価を行えるように取り組む。 ②クラフトマンⅢや社会人講師、工場見学などの機会を設け広い視野を育てる。	①ロイロノートでは、シンキングツールを活用し、生徒が活発的に意見を述べるができるように工夫した。また生徒の意見を集約し、全体に提示することで、単元のまとめも十分に理解することができ、学ぶ意識が向上した。ロイロノート以外の方法でも、生徒が活発的に授業に参加できるようなツールの模索や使い方を十分に理解することが今後の課題として挙げられる。 ②2年生の企業見学を実施したところ、多くの生徒が企業に対し、質問を行うことができた。一部の生徒は、工場内で見たロボットやシーケンス制御を参考に課題研究をやってみたいとの声も挙がった。今後は、生徒の興味・関心も考慮して、課題研究のテーマも考えていきたい。
建築デザイン科	①自ら考えて行動し、社会人に必要な資質を高めることができるための指導を行う。 ②コミュニケーション能力の向上並びに創造力を高める。 ③教員間の連携を強化し教育活動を展開する。	①挨拶のできる生徒、けじめある行動や生活(授業規律)、5Sの徹底(整理、整頓、清潔、清掃、躰)など社会で必要とされる生活習慣を身につけさせる。 ②生徒同士が互いに学び合う環境をつくり、自ら考える力を向上させる。また、各種コンクールへの取り組みをさせ知識の向上へつなげる。 ③教科の進行状況を把握し連携した教育活動が行えるように授業展開する。	①2級建築施工管理検定など、生徒から自主的・自発的な参加を促し、専門知識や技能の習得に努めることができた。また、大工の技能士に挑戦する生徒もおり今後も希望生徒には指導を行いサポートしながら取得を目指した来た。合格率はなかなか上がらない。今後もよりサポートしていきたい。 ②製図の課題や専門教科の授業の中で、ともに教えあい学びあう生徒がふえてきた。それによりコミュニケーション能力の向上並びに創造力を高めることができた。 ③科会は、授業の関係もあり開けないことも多いが生徒の情報については、昼の時間に情報共有し、生徒指導に生かすことができた。
都市工学科	①自ら学ぶ姿勢を養い、社会に必要な知識・技能の修得ができるための指導を行う。 ②基本的な生活習慣の確立ができ、社会に通用することができる人材の育成する。	①土木・都市工学に関連した資格取得を積極的に教科指導に取り入れる。また、生徒が自ら意欲的に取り組めるように、生徒同士が相互に学習できる環境をつくる。 ②挨拶・礼儀・けじめ・言葉使い等について指導し、社会人としてのマナーを身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力を育成を図る。	①測量士補6名合格、2級土木施工管理技士補21名合格した。資格の重要性を理解し、生徒が主体的に取り組むことができた。次年度以降も高い合格率を維持したい。 ②全体的には生活習慣の確立できているが、遅刻・欠席を繰り返す生徒もいる。個別に指導はしているが、なかなか改善できていない。家庭との連携を図っているが、さらに深め協力して指導したい。
3年学年会	①基本的な生活習慣が確立できるための指導を充実させる。 ②規範意識の向上。 ③進路指導の充実。	①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻・欠席を減少させる。 ②集団におけるルールの必要性を理解させ、規律ある行動を徹底させる。 ③担任、学科、進路指導部、生徒、保護者の連携を密にして、進路指導の充実を図る。	①多くの生徒は基本的な生活習慣が身につく、集団においても規律ある行動をとることができた。 ②生徒自身が規範意識を遵守しようとする意識を育てることができた。しかし、少数ではあるがこちらから規範意識について指導する場面もあった。 ③進路についても担任・学科・進路指導部・保護者と連携をとり、多くの生徒が希望の進路を実現できた。
2年学年会	①主体性の向上。 ②基礎学力の定着と学習意欲の向上ができるための指導を行う。 ③基本的な生活習慣の確立。	①学校生活のあらゆる場面での行動について、自分で考え責任を持った行動をとらせる。 ②授業中の意識を向上させ、学力の定着をはからせる。 ③欠席、遅刻、早退をなくし時間を意識した生活を送らせる。また、挨拶を中心とした社会的マナーを意識させる。	①担任と生徒との信頼関係を築くことができた。その結果指導効果が向上し、生徒は主体性を高め日々を過ごすことができている。引き続き来年度の進路実現に向けて意識を高めていきたい。 ②進路実現に向けて徐々に学習意欲が高まり、いい状態で年度末を迎えることができた。しかし、成績上位者と下位者の差が開き始めている実感も感じられる。底上げをし、上を伸ばす指導に力を入れていくことが大切である。 ③最上位学年を目前にし、生活習慣やマナーなどを身に着けることができた。一部、学校生活が合わず悩む生徒も見受けられるが、引き続き、学年、分掌、科と連携を高め対応していきたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1年学年会	①基本的な生活習慣が確立できるように指導する。 ②学習意欲の向上。 ③規則の遵守。	①遅刻、欠席、早退をなくし、時間を意識した生活を送らせる。 ②授業に取り組む心構え、姿勢、態度を意識させる。 ③学校生活を送るうえでのルールやマナーなどを身につけさせる。	①基本的な生活習慣が確立できていない生徒には、個別に相談に乗ったり、いろいろな先生方に声掛けをしてもらう等、学年全体で対応してきた。数名の生徒が進路変更となってしまったのは、残念だった。 ②学習意欲の向上を目指して、進路の話や勉強・資格の意義をいろんな場面で伝え、意識づけをしてきた。来年度も引き続き学習意欲・資格取得意欲を継続させることが課題である。 ③SNS関連での生徒間トラブルが起こったが、対象生徒に問題意識をきちんと自覚できるよう、指導部と協力しながら指導することができた。
総合評価	社会人として地域に貢献できる人材の育成を目標に、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の向上、コミュニケーション能力の向上を目指している。各分掌、科、学年で目標を定め取り組んできた。近年大変落ち着いた環境の中で教育活動が展開されている。今後も継続して安全教育の徹底、学習時間の確保、難関資格取得、部活動の活性化等の課題に積極的に取り組み、活力ある教育活動を展開していく。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	挨拶、マナーなど基本的な生活習慣の確立、基礎・基本の確実な定着、各種の資格取得を積極的に取得、進学希望者への補習体制の強化、5S（整理、整頓、清潔、清掃、躰）の精神を実践、研究授業や公開授業
自己評価結果について	学校生活を送る中で、生徒が意見を出し、生徒指導部や生徒会がサポートしながら、自分たちで考え決めて行動することに、自己肯定感と責任感を持たせる指導が全体に行き届き、着実に成果を上げている。整理、整頓など5Sへの取組から安全教育を行い、普段から当たり前として行える意識を持たせている。慣れに油断しないよう、継続指導を心がけている。授業では多くの科目でICT機器を活用し、効果的な学習方法を確立している。協働的な学びを展開し、他者の意見を認め、自己の意見を振り返るなど、学習に幅と深みを持たせる機会を設けている。公開授業をはじめ、校内外の研修会を充実させ、先生方が授業改善・授業研究に積極的に取り組みスキルアップを図っている。就職・進学はより幅広い進路選択が可能となり、生徒の理想とする進路実現への結果も伴っている。また、情報提供をタイムリーに実施したことや、新たにTeamsを利用した閲覧提供により、ご家庭でも資料をもとに会話が持て、満足度を高めている。
今後の改善方策について	教育課題の共通理解のもとに、教科横断的な学習指導を展開し、教科間の連携をより密にしていけることが必要となっている。また、対話的で主体的な学習活動を教科の中で実践し、協働的に学習する効果を高めている。また、学習指導と合わせて、生活指導においても、各分掌・学科・学年の協力体制の構築と指導の充実を目指したい。各教科において安全教育を引き続き実施する。特に実習を伴う教科においては、各時間の始業時に安全確認のポイントを示すなど、慣れによる事故を防ぐ試みを実践する。そして、生徒の安全意識を高めるとともに学びへの意欲につなげたい。今後も年2回の生活実態調査や学校評価アンケートを活用し、教育活動の改善を図りたい。また生徒、家庭、学校、地域の連携を積極的に構築し、生徒の活躍の場を広げるとともに学習意欲の向上につなげていきたい。家庭学習習慣の確立・一層の充実、基礎から応用に繋がる指導を展開していく。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	豊橋工科高校は子どもたち、保護者ともに満足度が高い学校である。学校は落ち着いており、マナー指導等がよく行き届きとても気持ちのよい生徒が多くなっている。 PTA主催で、公開授業の実施ができた。普段見ることのできない子供の学習する姿を見ることができ、家庭での会話につながった。今後も継続して公開授業を実施していただきたい。 専門学科の特質を活かして、社会で通用する人材育成が必要である。成果発表会では、生徒たちが堂々と発表し、大変よい姿であり、達成感を得ることができた。社会人基礎力の向上に期待したい。 自主性を大切にすることも大切だが、やりたくないことはやらないといった風潮にならないように、先生方の指導で主体的に取り組める活気ある学校になるよう、生徒を導いて欲しい。 基本的な習慣は身につけていると思っている。時間を守ることの継続指導を行い、学校で躰を受けたことが社会で生きるようになってほしい。 学校情報の発信を、生徒へのプリント配付だけでなく、マチコミメールを利用した保護者への直接配付も並行して行って欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成・・・学校評議員5名、PTA会長、PTA副会長3名、PTEA会長（定時制）計10名 ・評価時期・・・第1回（6月）、第2回（2月）